資料 2

久留米市子どもの生活実態調査の結果について

1　調査目的

子どもやその保護者の生活実態を把握するため、市内在住の小中学生及びその保護者を対象としたアンケートを実施し、「久留米市こども計画」や子どもの貧困対策の検討に活用するもの。

2　実施概要

(1) **実施期間**　令和６年１０月２８日～１１月１７日
(2) **調査対象**　久留米市在住の小学５年生・中学２年生とその保護者
(3) **調査方法**　郵送配布・郵送回答
(4) **調査項目**　国が令和２年度に実施した「子どもの生活状況調査」の調査項目を基本としつつ、本市独自の項目を追加
(5) **有効回収数等**　小中学生　２，１１０人（３５．２％）
保護者　２，１３４人（３５．６％）

3　調査結果の概要

(1) 生活困難度

全体としては、前回調査と比べ、「低所得」や「家計の逼迫」の割合は減っており、生活困難層の割合も減っている。

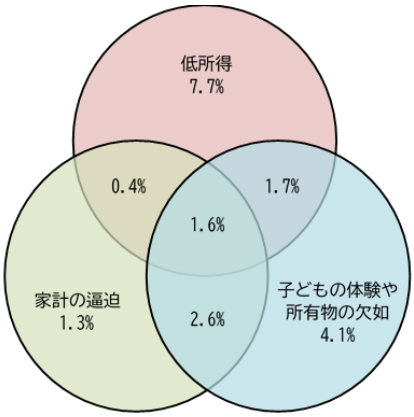
生活困難度を測る３つの要素の割合　　単位：％

	平成29年度	令和6年度
①低所得	14.2	11.4
②家計の逼迫	7.7	5.9
③子どもの体験や所有物の欠如	9.5	10.0

生活困難度の割合　　単位：％

		平成29年度	令和6年度
生活困難層		22.1	19.4
	困窮層（①～③の２つ以上該当）	7.5	6.3
	周辺層（①～③の１つ以上該当）	14.6	13.1
一般層		77.9	80.6

令和6年度　生活困難度の割合
（イメージ図）



生活困難度を測る３つの要素の定義

①低所得
世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割り出した値（＝等価可処分所得）が、厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」の結果から算出された貧困線「136万円」を下回る世帯。
②家計の逼迫
過去1年間に経済的な理由で経験した「公共料金や家賃の滞納」、「食費や衣類の費用の切りつめ」など全17項目のうち6項目以上該当する世帯。
③子どもの体験や所有物の欠如
過去1年間に経済的な理由で子どもに関して経験した「子どもの進路の変更した」、「子どもの服や靴が買えなかった」など全11項目のうち、3項目以上該当する世帯。

しかしながら、ひとり親世帯や養育者世帯では、依然として生活困難層の割合が多い。

生活困難度別　世帯類型の割合　　単位：％

		令和６年度					
		全体	ふたり親の世帯	ひとり親の世帯			養育者世帯
				母子	父子	合計	
生活困難層		19.4	14.9	52.1	35.5	48.7	100.0
	困窮層	6.3	4.0	23.2	16.7	21.8	66.7
	周辺層	13.1	10.9	28.9	18.8	26.9	33.3
一般層		80.6	85.2	47.9	64.6	51.3	-

※養育者世帯＝父母がおらず、祖父母等が養育している世帯

(2) 保護者の相談相手

「いざというときのお金の援助」に関しては、他の項目と比べて「頼れる人がいない」「人に頼らない」の割合が多くなっている。また、前回調査と比べて、相談相手がいない、または、相談しなかった保護者の割合は、全体的に、やや増えている。

相談項目別　相談相手の有無等　　単位：％

設問項目	頼れる人がいる	頼れる人がいない	そのことでは人に頼らない	無回答
子育てに関する相談	93.9	2.9	2.1	1.2
重要な事柄の相談	91.6	3.7	3.0	1.7
いざという時のお金の援助	68.5	9.7	19.3	2.5
その他	54.2	5.1	4.8	35.8

困っていることについての相談相手がいない、または相談しなかった保護者の割合　　単位：％

		平成29年度	令和6年度
全体		18.2	19.4
生活困難層	困窮層	38.2	45.9
	周辺層	28.3	27.5
一般層		14.4	16.2

(3) 世帯の手取り収入

全体では、約５割が「400～450 万円未満」から「700～800 万円未満」に分布しているのに対して、生活困難層では、約６割が「50 万円未満」から「200～250 万円未満」に分布している。

生活困難度別　世帯の手取り収入　　単位：％

区分		５０万円未満	５０万円未満～１００	０１００万円未満～１５	０１５０万円未満～２０	０２００万円未満～２５	０２５０万円未満～３０	０３００万円未満～３５	０３５０万円未満～４０	０４００万円未満～４５
全体		0.9	1.8	2.6	3.0	3.9	3.8	4.9	7.4	7.8
生活困難層	困窮層	3.0	9.0	12.0	17.3	17.3	7.5	3.0	9.0	6.8
	周辺層	5.8	9.4	13.8	12.7	15.9	6.2	5.1	9.8	2.9
一般層		－	－	0.1	0.4	1.0	3.2	5.1	7.0	8.8

単位：％

区分		０４５０万円未満～５０	０５００万円未満～６０	０６００万円未満～７０	０７００万円未満～８０	０８００万円未満～９０	０９００万円未満～１０	１０００万円以上	無回答
全体		8.1	13.1	10.7	7.4	4.2	3.0	7.5	9.7
生活困難層	困窮層	3.0	3.8	3.8	1.5	0.8	－	－	2.3
	周辺層	5.1	4.0	2.9	0.4	0.4	0.4	0.7	4.7
一般層		9.1	15.5	12.7	9.1	5.2	3.7	9.3	9.9

(4) 経済的な理由で経験したこと

生活困難度が高まるにつれ、支出を抑制する世帯の割合が増えており、特に困窮層では「趣味やレジャー」、「新しい服や靴を買う」、「食費」の支出が抑制されている。前回調査と比べると、生活困難度に関わらず、支出を抑制する世帯の割合が増えている。

生活困難度別　経済的な理由で経験したこと（回答割合上位の抜粋）　　単位：％

回答項目	一般層	周辺層	困窮層
趣味やレジャーの出費を減らした	33.7（28.9）	56.5（52.7）	89.5（76.5）
新しい衣服や靴を買うのを減らした	33.1（30.1）	60.5（54.5）	97.0（91.8）
食費を切りつめた	26.5（21.0）	55.4（50.9）	91.7（90.0）
新聞や雑誌を買うのを減らした	9.3（2.3）	26.8（15.4）	54.9（56.5）

※（　　）内は前回調査

(5) 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと

生活困難度が高まるにつれ、支出を抑制する世帯の割合が増えており、特に困窮層では「旅行やレジャー」、「おこづかい」の支出が抑制されている。前回調査と比べると、生活困難層（困窮層と周辺層）での支出抑制する世帯の割合が増えており、子どもの機会・体験が減っている世帯が増えている。

生活困難度別　経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（回答割合上位の抜粋）単位：%

回答項目	一般層	周辺層	困窮層
子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった	14.5（14.4）	47.1（44.6）	90.2（75.9）
子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった	5.1（6.4）	34.1（26.2）	65.4（67.6）
子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした	4.1（2.6）	30.1（24.1）	80.5（67.1）

※（　　）内は前回調査

(6) 子どもの進学希望の理由

進学先を選択する理由として、「希望する学校や職業があるから」では、生活困難度が高くなるにつれて割合が少なくなっている。一方で、「家にお金がないと思うから」では、生活困難度が高くなるにつれて割合が多くなっている。

生活困難度別　進学希望の理由　　単位：%

区分		希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答
全体		50.9	15.2	13.9	5.0	3.7	3.3	3.9	9.7	21.9	0.7
生活困難層	困窮層	40.7	19.8	11.6	4.7	3.5	10.5	5.8	8.1	27.9	1.2
	周辺層	46.6	15.5	13.8	5.7	2.9	5.7	5.7	10.9	20.1	1.1
一般層		52.1	14.6	14.0	5.0	3.7	2.4	3.6	9.8	21.8	0.6

(7) 子どもの夏休みや冬休みなどの期間の昼食

夏休みや冬休みなどの期間の昼食については、生活困難度が高くなるにつれて「毎日食べる」と回答した割合が減っている。しかしながら、前回調査と単純比較はできないが、今回調査では、「毎日食べる」もしくは「週５～６日」と回答した割合が、一般層 96.3%、周辺層 91.8%、困窮層 92.2%と、やや改善している。

生活困難度別　夏休みや冬休みなどの期間の昼食の状況　　単位：%

区分		毎日食べる（週7日）	週5～6日	週3～4日	週1～2日、ほとんど食べない	無回答
全体		88.7	6.7	2.3	0.8	1.4
生活困難層	困窮層	79.8	12.4	3.9	2.3	1.6
	周辺層	81.5	10.3	4.4	1.5	2.2
一般層		90.5	5.8	1.9	0.6	1.3

生活困難度別　夏休みや冬休みなどの期間の昼食の状況【前回調査】　単位：%

区分		毎日・ほぼ毎日	週4～5日	週2～3回	週1回程度	食べない	無回答
全体		88.6	9.2	1.5	0.2	0.3	0.2
生活困難層	困窮層	79.6	13.2	6.0	－	1.2	－
	周辺層	86.1	10.9	1.8	0.6	0.3	0.3
一般層		90.0	9.4	1.0	0.2	0.2	0.2

(8) 子どもの心身の不調

生活困難度に関わらず、一定数の子どもたちが心身の不調を抱えているが、生活困難度が高くなるにつれて、その割合が増える傾向にある。

生活困難度別　子どもの心身の不調　　単位：%

区分		ねむいなど	よく頭がいたくなる	歯がいたい	物を見づらい	聞こえにくい音がある	よくおなかがいたくなる	よくかぜをひく	よく体がかゆくなる
全体		8.8	11.0	1.8	6.0	3.3	15.1	2.7	11.5
生活困難層	困窮層	8.5	17.8	0.8	7.8	6.2	22.5	3.1	15.5
	周辺層	12.5	12.5	2.6	6.6	5.5	17.7	4.1	12.9
一般層		7.9	9.9	1.7	5.8	2.8	14.2	2.4	11.0

単位：%

区分		不安な気持ちになる	まわりが気になる	やる気が起きない	いらいらする	その他	とくに気になることはない	無回答
全体		18.7	18.7	23.0	18.5	5.5	43.5	1.5
生活困難層	困窮層	26.4	24.0	26.4	21.7	4.7	34.1	4.7
	周辺層	22.5	24.0	29.2	24.0	5.5	33.6	1.5
一般層		17.6	17.5	21.7	17.0	5.7	46.3	1.1

４　調査結果から見えてきた現状と課題と今後の取組について

⑴　現状と課題

生活困難層は減ってはいるが、ひとり親や養育者の世帯の生活困難層の割合は高く、依然として困難な状況に置かれている。

相談相手がいない、相談しなかった割合が全体的に増えていることから、核家族化やコロナ禍の影響で、子育て世帯の孤立が進んでいることが推測される。

生活困難層の手取り収入は、かなり低く、経済的な理由で「新しい服を買う」「食費」「旅行やレジャー」をあきらめる割合が、前回調査から増えている。前回調査と比べて、低所得の割合が減っていることも踏まえ、子育て世帯間の格差が広がっていることが推測される。

また、生活困難層において、「子どもの進学」「夏休み期間などの昼食」「心身の不調」については、一般層と比べて厳しい状況にあり、貧困が子どもの成育に影響を与えている状況は変わっていない。

このようなことから、生活困難層の割合は減っているが、依然として経済的に厳しい状況に置かれており、そのことが子どもの機会・体験、進学、健康面などに大きな影響を与えている。また、子育て世帯の孤立が進んでおり、課題を抱えていても、相談しにくい、または、相談できない状況が、更に生活することを困難にしていると推測される。

⑵　今後の取組

「久留米市子どもの貧困対策推進計画」を策定し、「子どもの貧困」に関する課題の解消に向けて取り組んできたが、「経済的な理由による子どもの機会・経験の喪失」、「ひとり親世帯等の生活困難層の高い割合」などの状況が改善されるには至っていない。今回の調査結果を踏まえて、改めて「久留米市子どもの貧困対策推進計画」の総括を行い、個々の事業・取組の検証を行っていく必要がある。

子どもの貧困は家庭の経済状況に著しく依存しており、貧困や格差の再生産を防止するためにも、「子どもの貧困対策」と「親の貧困対策」の両輪で進めていく必要ある。

こうしたことを踏まえて、「久留米市子どもの貧困対策推進計画」の総括に合わせて、今後は、「久留米市こども計画」に事業・取組を継承して取り組んでいくこととする。